

近年の「想定外」豪雨による災害について考えるシンポジウム 2014

～降雨特性・地形・地質の違いによる災害形態の比較～

主催：「想定外」豪雨による地盤災害への対応を考える調査研究委員会
(公社)地盤工学会関西支部、(一社)日本応用地質学会関西支部、関西地質調査業協会、中部地質調査業協会合同委員会

共催：(公社)地盤工学会関西支部、(一社)日本応用地質学会関西支部、
関西地質調査業協会、中部地質調査業協会

平成 23 年台風 12 号によって全国的に豪雨による災害が多数発生した。特に、近畿地方では、大規模な土砂崩壊、土石流、洪水被害など甚大な被害があった。「想定外」豪雨による地盤災害への対応を考える調査研究委員会は、この地盤災害に対して、より詳細なデータを集め地域の地盤災害の特性やメカニズムについて調査研究を行い、想定を超えるような豪雨に対する地盤災害の減災に向けた提言を行うこと。さらに、調査研究を進める上で明らかになった知見を広く社会にわかりやすく情報を発信することにより、市民の防災意識の向上及び防災行政の一助とすることを目的に、調査研究活動を進めている。

本シンポジウムでは、近年発生している全国の「想定外」豪雨の事例についてご講演をいただき、講演者、委員ならびに会場参加者を含めて「想定外」豪雨に対する対応策について討論を行う。

日時：平成 26 年 9 月 2 日(火) 13:30～17:30

場所：建設交流館 グリーンホール 定員 200 名

大阪市西区立売堀 2-1-2. TEL：06-6543-2551 (代)

参加費：会員・特別会員・協賛団体の会員 3,000 円、非会員 5,000 円、学生 1,000 円

内容：

13：30 開会挨拶 (一社)日本応用地質学会関西支部 支部長 釜井 俊孝

13：40 講演 1 平成 23 年台風 12 号豪雨による地盤災害
立命館大学 教授 深川 良一

14：30 講演 2 平成 24 年 7 月九州北部豪雨による地盤災害
九州大学 准教授 笠間 清伸

15：20 講演 3 平成 25 年 10 月台風 26 号による伊豆大島豪雨災害
山梨大学 准教授 後藤 聡

16：10 休憩

16：20 討論会

コーディネーター：立命館大学 教授 深川 良一

パネリスト：山梨大学 准教授 後藤 聡

九州大学 准教授 笠間 清伸

大阪市立大学 教授 三田村 宗樹

和歌山大学 教授 江種 伸之

三重大学 教授 酒井 俊典

17：20 閉会挨拶 (公社)地盤工学会関西支部 支部長 内田 一徳

17：30 閉会